

「福島高校の宝物」

新型コロナウイルス感染症の影響から波乱のスタートとなった 1 学期も終わりを迎えようとしている今、私の心に改めてひとつの思いが浮かんでいます。

「やっぱり福島高校の宝物は生徒たちだなあ」という思いです。

本校には全日制に460名、定時制に40名、合わせて500名の生徒が学んでいます。4月に全員が揃って新しいクラスで意気揚々とスタートするはずだったところが、昨年度末から引き続きの休校となり、5月後半になってやっと分散登校からの学校再開となりました。それからというもの、それまでの遅れを取り戻すために、全日制では45分間の8時間授業という大変厳しい条件の中で頑張ってもらいました。定時制でもいつもとは違うスケジュールの中、多くの課題に取り組んでももらいました。行事も大幅にカットせざるを得ませんでした。そんな中でも、話を聞くことのできた生徒たちは「きついけれど、先生たちも私たちのために頑張ってくださいているから、頑張ります！」と言ってくれています。

部活動に関しても、複雑な思いが心の中で渦巻いているだろうに、最高に輝く顔で洗剤と戦ってくれています。職員も生徒のためにと身体を壊すのではないかと心配になるほど、毎日必死で頑張ってくれています。そのような姿を見るにつけ、私は感謝の気持ちでいっぱいになります。

校長の立場としては、「生徒たちのために、学校のために、自分にはもっと何かができるのではないか」という複雑な思い、申し訳ない思いがぬぐい切れないところです。しかし、「福島高校の宝物」である生徒のみなさんの姿に触れるたびに、元気が湧いてきます。希望が見えてきます。まさに「宝物に感謝」だなあと思っています。

新型コロナウイルス感染症はここにきて感染者数が増加を続けるなど、いまだ予断を許さない状況です。大雨や土砂災害等の自然災害も繰り返し起きていますが、こんな時だからこそ、支えてくれている人たちへの感謝を忘れずに、夢と勇気をもって一歩ずつ前進していきましょう！

福岡県立福島高等学校

校長 濱 順一